令和７年度

すくわくプログラム活動報告書

（実施対象：４・５歳児クラス）

モニカ都立大園

Monica

テーマ

空の探究

設定理由

子どもたちから「こっちの空は明るいのに向こうは暗い」「飛行機雲だ」「あの雲わたあめみたい」など、空にまつわるつぶやきが多く聞かれるようになってきた。また、「今日は晴れてるから水遊びができるね」と空と自分たちの生活を結び付けて考える姿も見られている。大きな窓からいつでも空を見ることができ、園庭やテラスで空を観察したり、プロジェクターを使って投影できる環境を活かして、空に美しさや不思議さを見出しながら、空との共感的な関係性を育んでいきたいと考えた。

対象クラス　４・５歳児クラス、２４名

活動のねらい　空との共感的な関係性を育む

問　　い
「あれはなんだろう？」
「どんな気持ち？」
「どうしてそう思ったの？」
「この絵について教えてくれる？」

活動期間　令和７年９月～１１月

活動回数　計４回

活動① 空との関係性を知る

準備物

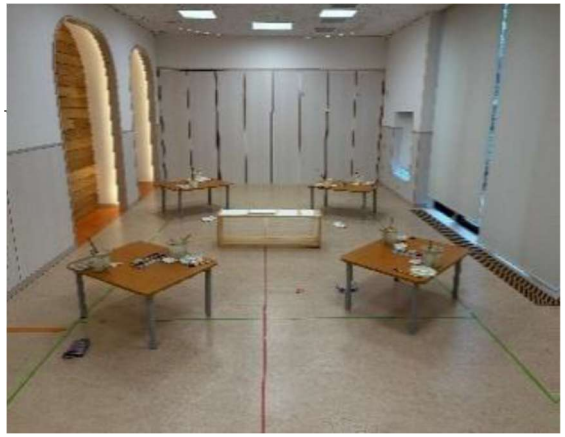
iPhone(1)

環境構成

空の写真を撮る。

テラス、子ども2-3人、保育者1人

活動② 空を描く



準備物

画用紙(白、16切り程度)｜細い黒ペン｜水彩パレット

筆(太・細)｜バケツ｜雑巾｜休憩室の机(4)｜低い両面棚(1)

環境構成

ホール、子ども2人、保育者2人

活動③　晴れの世界を作る

準備物

オーガンジー(赤、黄、オレンジ、緑、青、白)
積み木｜カプラ｜フィギュア(木・人・動物)
クリップライト(2)｜白い布｜iPhone

環境構成

ホールを半分に区切る、1グループ子ども11人・保育者2人

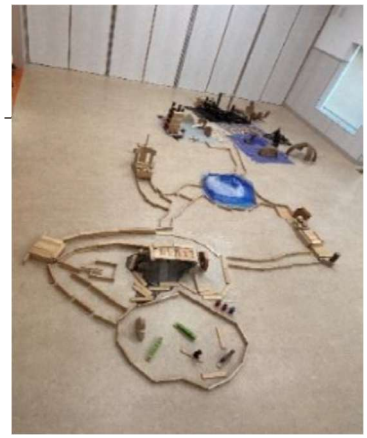
活動②　雨の世界を作る

準備物

オーガンジー(赤、黄、オレンジ、緑、青、白)
積み木｜カプラ｜フィギュア(木・人・動物)
クリップライト(2)｜白い布｜iPhone

環境構成

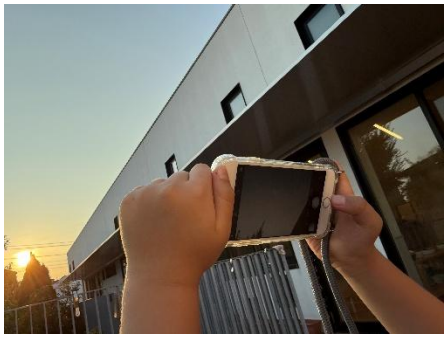
ホールを半分に区切る、1グループ子ども11人・保育者2人



活動①　空との関係性を知る　　R7 年 9 月

初めに、サークルタイム(輪になって対話する時間)で「空について知っていること教えて」と問い、対話の時間をもった。
子どもたちからは、「太陽」「青い空」「雲」「夕焼け」「雨」「雷」などこれまでの経験から様々な空のイメージがあがった。
そこからさらに「その空を見たときどんな気持ちになる？」と問いかけると、青空に対しては「散歩したい」「いい気持ち」「水遊びしたい」、雨の空には「外で遊べなくて悲しい」「雨の中遊んでみたい」など、空と気持ちを結び付けて考える姿が見られた。

(1)空の写真を撮る
その後、一日の中で移り変わる空を実際に観察、撮影し、色や明るさ、雲の形などの変化に気付く姿があった。
「空がオレンジ！」「きれいだね」
「あっち（オレンジに見える空の下）にいる人は周りが全部オレンジに見えているんじゃない？」と
その時感じた気持ちや想像したことを友だち同士で伝え合い、空への関心がさらに深まっていった。



(2)空を描く
これまで見てきた様々な空を踏まえて「好きな空」を描く活動を行った。
子どもたちは実際に見た空を思い返したり、「この空はジャンプしたらいけるんだよ」「好きなお菓子もあるよ、好きなものがいっぱいで楽しいの」と想像を膨らませながら自由に描いて表現していた。

子どもたちは「空」という身近な題材から、自分の経験や気持ちを結び付けていた。
ただ、空を「見る」だけではなく、色や形の変化に気づき、「どんな気持ちになるのか」「どんなことがしたくなるのか」と自分なりの意味づけをしていた。
また、友だちの発言を聞いて「そんな気持ちもあるんだ」「私はこう思うよ」と自分とは違う感じ方に気が付いたり、想像を広げたりする姿も見られ、同じ空でも捉え方が一人ひとり異なることを自然と感じていたように思う。

活動②　様々な空を投影し気持ちを表現する　　R7 年 10 月

　ホールに一日を通しての空の様子や様々な空模様の映像を映し出し、オーガンジーを使って身体表現を行った。

　朝の空では、眠りから覚めるようにゆっくりと身体を動かす姿が見られ、太陽が昇る場面では「走りたくなる」と言葉にしながら、のびのびと走る姿があった。

雲の動きや空の広がりを、オーガンジーを揺らしたり、持つ位置や動かし方を変えたりしながら表現していた。

　雷の場面では、オーガンジーを激しく上下に動かしたり、足音を立てたりと、音や動きも工夫して表現する姿が見られ、他の空の場面でも、それぞれが感じた空の様子を自分なりに身体で表現していた。

また、活動の中で、友だちの動きを真似したり「ゆっくり動いてみよう」「一緒に動かそう」と声を掛け合ったり、同じオーガンジーを共有する中で、動きを合わせたり、タイミングを揃えようとするなど、自然と共同・協力しようとする姿もあった。

　映像と素材を組み合わせることで、子どもたちは空の変化をより具体的にイメージし、身体表現を楽しむことができたように思う。

保育者が空の様子を言葉で伝えたり、「どんな動きが空の気持ちに合うかな？」と問いかけたりしながら表現のきっかけを作ることで子どもたちは安心して活動に参加し、自分なりの表現を楽しんでいた。

また、「こんな動きもできるね」と可能性を示すことで、自由に試しながら表現を深める姿が見られた。

活動③　晴れの世界を作る　　R7 年 11 月

カプラや積み木、オーガンジを用いて晴れの世界を想像して作るという活動を行った。

二つのグループに分かれて活動を行った。はじめは 2〜3 人で集まって作っていく姿が多く見られたが、途中から「ここと繋げたら面白くなりそう！」と個々が作った物を繋げて一つの大きな世界を作り出していく姿が印象的だった。

晴れの世界を作る時、子どもたちは赤、黄色、オレンジなどの暖色系のオーガンジーを手に取る姿が多くあった。

作り上げたカプラのタワーの上にオーガンジーを被せ、「これは太陽が暑くしているから上に掛けたの」と話し、日差しが照り付けている様子を表現していた。

他にも、「晴れている日は暑くてのどが渇くから水のみ場を作ってあげるんだ」と話し、青や水色のオーガンジーで池や海を表現し、周りに動物の積み木を置く姿があった。

活動④　雨の世界を作る　　R7 年 11 月

晴れの世界を作った時と同様に、次は雨の世界を作る活動を行った。

雨の世界作りでは、晴れの日の世界作りの時よりも照明を落として部屋を薄暗くして行った。

子どもたちは黒や青、水色のオーガンジーを手に取る姿が多く見られた。構築していく中で、活動②で映し出した雷の空の映像を思い返して作り進めている様子で、「あの時の雷ってこんな感じの黒い雲がいっぱいだったよね」と友だちと試行錯誤をしながら作っていた。

水を表現するときも、晴れの日の世界を作る時と同じ青のオーガンジーを使っていても、「これは滝なんだよ」「雨がいっぱい降ったから滝になったの」と話す姿や、「雨が強いからみんなが雨宿りできるようにトンネルを作ってあげよう」と実際には降っていない雨を想像しながらそれぞれが雨の世界のイメージを広げながら作り出す姿が印象的だった。

同じ素材、同じ色の物を使っていても、「晴れの日」「雨の日」と分けてイメージを広げることで、子どもたちは異なる想像の仕方をしていると感じた。

それぞれが表現する際に思い描いていたイメージと、みんなの表現をつなぎ合わせる中で生まれた新たなイメージの双方を大切にしながら、対話や会話を重ねてさらに広がりのある世界を作り出してく姿が印象的だった。今後の活動でも子どもたち同士の対話を大切にしながら、子どもたちの想像力が深まる活動を取り入れて行きたいと思う。

テーマ：空の探究

全体の振り返り

空を見上げ、写真を撮ったり、描いたり、身体で表現したりする活動を通して、子どもたちにとって空は「感じるもの」「表現できるもの」だと発想が広がったように感じる。明るさや色の違い、時間による変化に気付き、空と自分の気持ちを重ねる姿が印象的だった。プロジェクターやオーガンジーを用いた活動では、空の色や広がりを全身で表現し、友だちとイメージを共有しながら世界をつくる姿へと発展していった。空の探究を通して、空の美しさや不思議さに心を動かし、自分なりの表現方法で関わろうとする姿が豊かな感性につながったのではないかと思う。今後も、子どもたちの「なぜ？」「綺麗」「なんだろう」という気持ちを大切にしながら、自然との共感的な関わりを深めていきたい。

終

株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ都立大園

〒152-0034
東京都目黒区緑が丘1-2-14
TEL:03-5726-9145
FAX:03-5726-9146